進化する毎日。京葉線

２０１８年４月２７日
千　葉　支　社

「進化する毎日。京葉線」 2017年度の主な取組み

ＪＲ東日本グループでは、地域との連携を強化する取組みとして「選ばれる沿線ブランドの確立」を目指しています。千葉支社では京葉線のさらなる発展の可能性に着目し、「京葉ベイサイドラインプロジェクト」を立ち上げ、「選ばれ続ける京葉線」の実現に向け取り組んでいます。

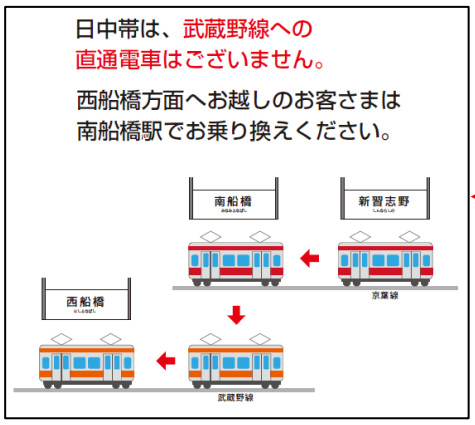
2017 年度はプロジェクトの一環として、千葉工業大学と連携を図り京葉線の魅力づくりを推進すると共に、駅を快適にご利用いただくことを目的としたホーム屋根整備やトイレ整備、幅広改札案内サイン設置等を実施しました。また、社員による「遊び心のアイデア」として、インドネシアに譲渡する車両に「ジャカルタ行き」の行先表示を掲出し話題となりました。2018 年度は、12 月 1 日新木場駅～蘇我駅暫定開業 30 周年を控え、より一層の進化を遂げる京葉線にどうぞご期待ください。

1　千葉工業大学との連携

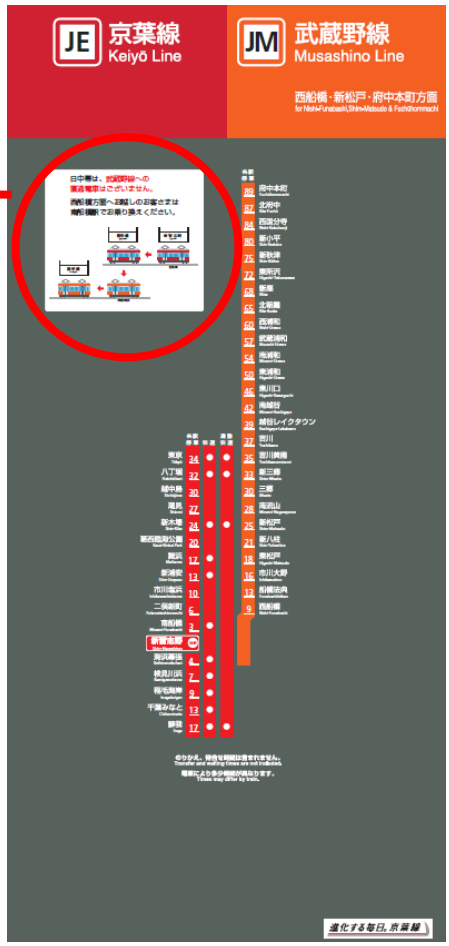
2017 年 7 月より、「各駅周辺の特性を活かした地域との連携」の方向性のもと、京葉線魅力づくりの実現を目的として、京葉線新習志野駅近隣にキャンパスを構える千葉工業大学と連携を図り、プロジェクトを推進しています。

【案内サインゲート設置】

創造工学部デザイン科学科　橋本研究室授業の課題として、京葉線活性化プロジェクトと題し、学生による現状調査や駅社員との意見交換などをもとにした「京葉線沿線地域の魅力とブランディング、デザイン提案」に取り組んでいただきました。第 1 弾として新習志野駅にデザイン提案をもととした案内サインゲートを設置しました。



武蔵野線乗り換え案内



設置前

設置後

【フラッシュモブの実施】

吹奏楽部と連携し、「音」を通じた京葉線の魅力づくりとして、2017 年 11 月 3 日（土）新習志野駅前広場ではフラッシュモブ及びミニコンサート、2018 年 2 月 10 日（土）海浜幕張駅前広場にてフラッシュモブを実施しました。

新習志野駅

海浜幕張駅

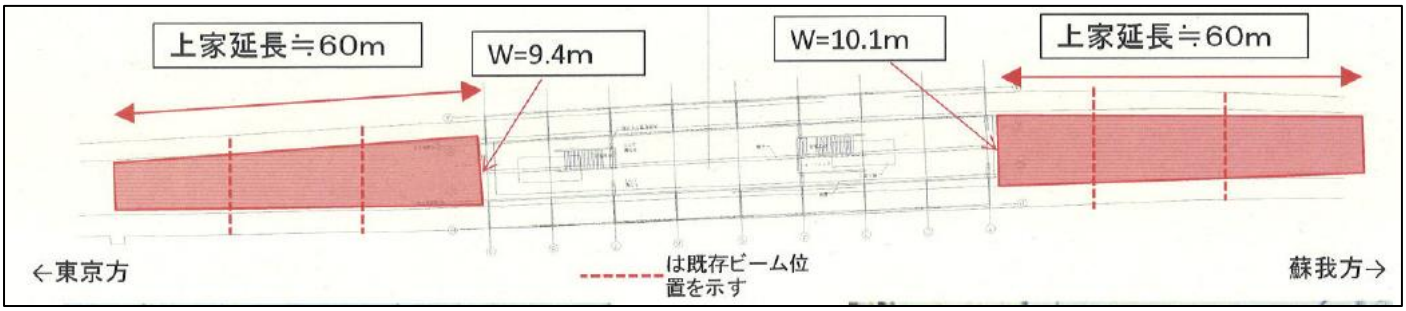
２　ホーム屋根整備

【潮見駅】（2017 年 6 月 15 日～）

従来のホーム屋根を 120m 伸ばし、10 両編成全てが屋根にかかるようになり、雨の日でも便利にご利用いただけるホーム屋根を整備しました。

従来のホーム

工事後



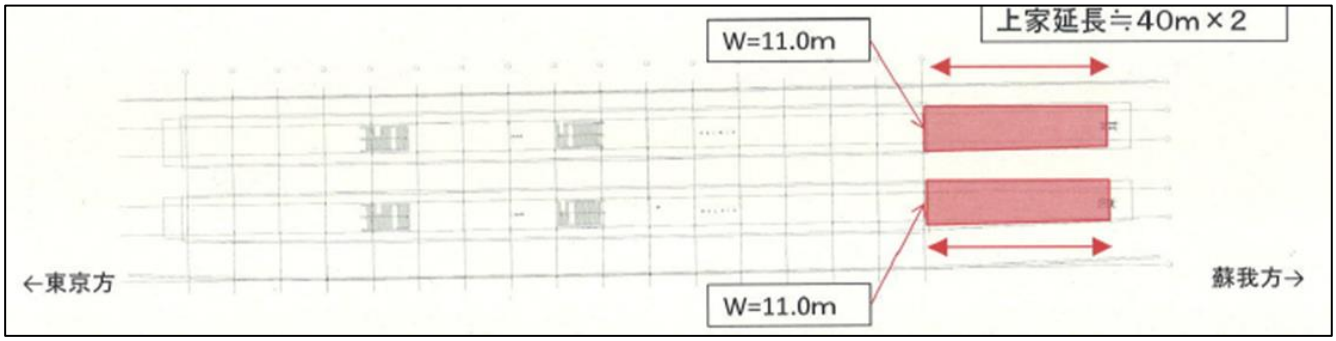
図：潮見駅ホーム

【南船橋駅】（2017 年 12 月 22 日～）

従来のホーム屋根を蘇我方に 40m 延ばし、10 両編成全てが屋根にかかるようになり、雨の日でも便利にご利用いただけるホーム屋根を整備しました。

従来のホーム

工事後



図：南船橋駅ホーム

３　新浦安駅トイレ整備（2017 年 9 月 17 日～）

快適にご利用いただけるよう全体的にリニューアルし、個室トイレ全てを洋式化しました。
また、落ち着きのある色彩を採用することで高級感を演出しました。

トイレ入口（整備前）

トイレ入口（整備後）

4　幅広改札案内サイン設置（2018 年 3 月 27 日～：葛西臨海公園駅、南船橋駅、海浜幕張駅）
ベビーカー、車いすご利用のお客さま、大きな荷物をお持ちのお客さまに対し、視認性を向上させるため幅広改札への案内サインを設置しました。

葛西臨海公園駅　設置前

葛西臨海公園駅　設置後

5　「ジャカルタ行き」の行先表示を掲出（2018 年 3 月 2 日～）
JR 東日本では、2014 年 3 月に締結した協力覚書に基づき、インドネシア通勤鉄道会社へ車両メンテナンス、乗務員による車両の点検・整備やサービス向上など、様々な協力を実施しています。
インドネシア通勤鉄道会社に譲渡する武蔵野線 205 系車両を、京葉車両センターから回送する際、現場社員のアイデアで「ジャカルタ行き」の行先表示を掲出し、SNS などを通じて話題となりました。

インドネシアへ向けて回送

「むさしのドリーム　ジャカルタ行き」

「しもうさ号　ジャカルタ行き」

「桜バージョン　ジャカルタ行き」